



# 特集 Special feature

目指せ伝建地区  
寺町・空町地区  
町並調査プロジェクト

# 目指せ伝建地区



雲龍寺鐘楼門



天照寺の紅葉

私たちが暮らす高山市には、ユネスコ無形文化遺産に登録された屋台行事や、日本遺産に認定された「飛騨匠の技・こころ」を構成する文化財など、国内だけでなく、世界から認められる歴史的・文化的な財産が数多くあります。歴史的な町並みも高山が世界に誇る財産の一つです。町並みを保存するための取り組みの一つに「伝統的建造物群保存地区（以降「伝建地区」という）」制度があります。現在、市では寺町・空町地区の伝建地区化に向けた調査を実施しています。今回の特集では、取組内容や関係者の思いなどを紹介します。様々な歴史が織りなしてきたこの地区の景観もまた大切な財産です。皆で一緒にこの地区を次世代に残していきたいと思います。

## 伝統的建造物群保存地区とは

戦後の高度経済成長に伴う開発の中で、伝統的な建物は急速に姿を消していきました。この危機感から、国は昭和50年（1975年）、歴史的な集落や町並みの保存と活用整備を行うために「重要伝統的建造物群保存地区」を選定する制度を作ります。この制度は、自治体が保存すべき地区を定め、外観の変更や新築など（「現状変更」といいます）を許可制とすることで、景観に合わない建築を抑制するとともに、建物の修理などに対し助成（対象経費の80%または規定上限額）を行い、景観と建物の保全を図るものです。

市内には既に三町と下二之町大新町の二つの重要伝統的建造物群保存地区があり、伝統的な町並みが維持されるとともに、多くの観光客が訪れる地域となっています。



下二之町大新町

## あの時に選定されていなかったら

天照寺住職 銅島大衍さん

三町地区の伝建地区選定に携わりましたが、今思うと、あの時に選定されていなかったら、古い町並は無くなり、大きなビルや店舗が並ぶ場所になっていたかもしれません。江戸時代から商人町として賑わっていた三町地区は、昭和9年のJR高山線全線開通に伴って駅の周辺などが町として発展する中で衰退しました。この景観を守ろうと、住民が保存会を立ち上げ、市も伝建地区の選定に向けて取り組みました。こうした住民の熱い思いにより景観は守られ、今では多くの観光客で賑わう観光地になりました。今あるこの素晴らしい景色が末永く残っていくことを願っています。

